

外部評価委員会結果記録書

令和 7 年 3 月 1 7 日作成

評 価 年 月 日	令和 7 年 2 月 1 7 日 (月)
評 価 の 概 要	1 令和 6 年度上半期の取組結果について 目標達成に向けて直線的に削減してそれでOKということではなく、できるなら目標のさらに下を目指して取り組んでもらいたい。 廃棄物ではなく資源としてリサイクルに回すものについては、表示を工夫するなどして間違いのないようにしてもらいたい。 新任職員研修などは、継続して実施することで理解が広がり効果が表れる。 2 令和 6 年度事務局監査の結果について 以前は「不適合」などが多かったが、このところはなく、細かいものだが「優良事例」が増えており、良くなったと感じる。 環境リスクチェックリスト等については、法令改正に合わせて必要な修正を行い、最新の状態にしておくよう、引き続き、気を付けてもらいたい。 3 令和 7 年度の取組について 太陽光発電設備の設置は、エネルギー使用量削減の観点から、設置可能な建築物の50%といわず設置できるところには設置されたい。

評 価 の 概 要	新築建築物のZEB化について、まずはZEB Oriented相当を目指すというのは、目標が低く疑問がある。 ZEBやZEHに取り組んでいる県内業者の紹介なども検討してもらいたい。 ZEB化は、全体でエネルギー使用量が削減されるため効果は大きい。 LED照明の導入は、進捗が少し遅いと感じる。 再生可能エネルギー電力の調達について、排出係数の低い電力の調達方法を検討するとあるが、再生可能エネルギー電力の活用を進めるようお願いしたい。
------------------	---